

基礎情報（まちづくり分野）

足立区の現状

- ・日暮里・舎人ライナーの駅勢圏では宅地が約 49%。T×新駅では約 57%。
- ・交通空白地域面積は減少傾向（新線開業、コミュニティバス拡大のため）
- ・南部の密集市街地における地震危険度が高い。
- ・荒川より北では、舎人周辺を除き浸水が見込まれる。
- ・緑被率は平成 6 年度以降、微増（15.7%（H6）⇒ 17.1%（H21））
- ・ごみ収集量は減少傾向（174,560 t（H16）⇒ 139,569 t（H26））
- ・「通勤や通学などの交通の便がよい」と考える人の割合は増加。「景観・街並みが魅力的になってきている」と思わない人は約半数。

社会動向

- ・今後、インフラが急速に老朽化による更新費用の増大と、土木職員の減少が懸念。
- ・社会インフラの維持管理における住民参加のさらなる拡大。

現行基本構想に対する区の実施等

- ・エリアデザインによるまちの魅力の創出と民間活力の導入。
- ・鉄道立体化促進事業の推進。
- ・鉄道 8 号線（有楽町線）の整備促進。

第 1 回～第 3 回審議会でのいただいた意見

【現状】

★まちづくり分野

- ①老朽家屋対策はやっている一方で、無接道の家屋には手を打てていない。
- ②密集地域がまだたくさんある。道路も狭い。解消が必要。
- ③防災面でも老朽家屋対策が必要。
- ④障がい者などの災害弱者にとっては、被災時に避難することは不可能に近い。
- ⑤現在の基本構想は震災前に策定されており、防災に強いまちづくりに関する記述が少ない。被災地の取り組みを参照してはどうか。
- ⑥一戸建てよりも集合住宅がさらに増えていくと思うが、注意点もある。
- ⑦ワンルームマンションが増えて、住民税納付はないが行政サービス提供はしているという問題が顕在化している。
- ⑧環境対策の取り組みは素晴らしい。強みとして積極的にアピールを。
- ⑨南北の交通網は良いが、東西は不足している。荒川堤北に大環状網を整備すればアクセスが向上する。
- ⑩都市計画道路は何十年も動いていない箇所があり規制を外す、見直すなどの対応が必要。
- ⑪公共交通空白地域が 6%に減少したとはいえ、そこに住む人は大変である。
- ⑫鉄道駅誘致による交通空白地の低減は良いこと。
- ⑬大学誘致やエリアデザインによる魅力ある街づくりは良いこと。
- ⑭交通の便が良いと思う人は上昇傾向にある反面、景観・街並みが魅力的になってきていると思う人は減少傾向にあることは問題。
- ⑮零細・小規模企業は後継者不足で減少。大人数で会合を開く場所が区内にない問題もある。
- ⑯大宴会場のあるホテルが無い。外国人を招待するにも A クラスのホテルは必要。

★4 専門部会共通の内容

- ①高齢化や失業率等の日本全体や都の課題と足立区単独で対応可能な課題とを切り分けるべき。
- ②基本構想を考えるうえで、人口推計や 30 年先の国のデータ、区の考え等を知りたい。
- ③区民ニーズは、世論調査的なものだけでなく、審議会としてのデザインができた段階で区民に意見を聴いたらどうか。意見交換会（討論会）を検討してはどうか。
- ④いろいろな施策が成果を挙げている反面、もう少し力を入れてもよさそうなものもある。
- ⑤インフラ面に力を注いでも人間の心の教育がなければ、今後、さらにひどい状況になるのは必至。本来、家庭で代々受け継がれるべきこと。
- ⑥今回、無作為抽出かつ世代別に意見交換会を実施したのは良い。今後もいろいろな意見を反映していく仕組みを生かしてほしい。

【将来の課題】

★まちづくり分野

- ①集合住宅が増え、将来スラム化しないように計画的な修繕を指導していく必要がある。
- ②若年層を呼び込む魅力あるまちづくりを進めていくことが大事。
- ③エリアデザインは優先順位をはっきりさせて、地区別に計画的に整備すべき。
- ④インフラ整備の充実にあたり、将来的にどのような問題点が出て来るのかを整理する必要がある。
- ⑤TASK など、ものづくり産業の活性化を目指した他区連携も検討すべき。
- ⑥今後、大きなインパクトがある事業として、鉄道立体化整備、地下鉄 8 号線の誘致、北綾瀬駅の始発駅、都営住宅等の建て替えに伴う余剰地活用などが考えられる。
- ⑦建物の耐火・不燃化やライフラインの耐震化などのハード面を強化することによる、災害弱者が震災時に逃げなくても良いまちづくりが必要。
- ⑧区民の防災に対する意識啓発が重要。区民の防災力を向上に向けて行政が支援するべき。
- ⑨まちづくりには、地元への還元という視点が必要。
- ⑩足立区は潜在的なポテンシャルが高い区だと思うが、優先順位や効率性を考えて開発を進めるべき。

★4 専門部会共通の内容

- ①20 歳代の転入増を分析のうえ、担税力のある若者を転入させる施策が重要。
- ②区の北東部の都営住宅では、低所得の外国人も多く、言葉の障害もあり学力水準の低下が著しい。国が移民を受け入れる時代を先取りし、住宅政策や学力向上の支援策を検討したい。
- ③ヒト・モノ・カネには限りがあるので優先順位をつけて計画を立てなければならない。
- ④基本構想は、区民に分かりやすいメッセージ、スローガンにして、伝えるようにすべき。
- ⑤人の力、人の良さを生かす足立区であって欲しい。
- ⑥成果を挙げてきた施策も、継続的な努力をしないと後戻りする。絶えず施策・事業を厳しく見直し、新たな視点・アイディアも取り入れ向上に努めてもらいたい。
- ⑦基本構想策定の目的は、「住んでみたい足立」を協働により築き、その将来像は「住んでよかった足立」をめざすことではないか。
- ⑧財政の見通しを踏まえ、どんな区づくりを進めていくのか、将来のシナリオについて数パターン示す必要がある。